



第131号
野毛山幼稚園
横浜市西区老松町30
TEL045-231-0150

そうそうそうそうそう！

共に育つ幼稚園

野毛山キリストの教会牧師
野毛山幼稚園園長

奈良昌人

おもちつきから始まった三学期、園庭からは子どもたちの歓声がひととき大きく聞こえます。また、事務室にいと、
「ふくろ、くーらーさいっ」と大きな声
が聞こえてきます。年少さんかなと「は
い、どうぞ！」と答えると、好きな袋を
選んで「ありがとうございます」とまた
園庭に戻っていきます。すずらん組の子
どもたちは4月入園当初、初めての集団
生活で自分の世界に浸って過ごす毎日
でしたが、ちゃんと自分の好きなことを見
つけて遊んでいます。友だちとの関わり
も深まってきました。年中ゆり組の子ど
もたちは、年少の一年間の幼稚園生活を
経験して友だちとの関わりができて楽し
いことがたくさんある反面、関わり合
いが上手にできないこともあって時にぶ
つかり合いながらも楽しい幼稚園生活を
過ごしてきたことが、1階の廊下から聞
こえてくる四季折々の歌声で分かります。
そして、スイトピー組の子どもたちは野

毛山幼稚園の年長組として、幼稚園を引
つ張ってきてくれました。皆が野毛山幼
稚園の子どもとしてとても大きく成長し、
園生活を心から喜び楽しんでいる様子、
三学期の歓声がそのことを証明していま
す。特に、間もなく卒園するスイトピー
組の子どもたちが、幼稚園生活を名残惜
しんで、心満たされるまで遊んでいる姿
を見ますと、毎年のことながら、改めて
子どもたちを愛おしく思うのは、私だけ
ではないでしょう。保護者の皆さんも毎
日子どもたちと一緒に通園され、どのお
子さんとも顔見知りになられたことによ
り、子どもたち一人ひとりへの思いは本
当に温かいものになっていることではし
ょう。実は、子どもの育ちにとつて、この
ことがとても大きなことなのです。神さ
まにお守りいただき、保育者と保護者の
皆さんの祈りの中、子どもたちはその学
年らしく、その子らしく大きく成長いた
しました。その子らしく育ったのです。
子どもは自ら育つ力を持っています。
しかし、その力が十分に発揮されるため
にはおとな(特に親)の愛情が必要です。
ソーシャルワーカーの大野伸之先生のお
話を伺う機会がありましたので紹介しま
す。大野先生とは20年ぶりの再会でした。
先生は、「育ち」：子育ては「子どもが育
つ」ことのお手伝いであり、子ども主体
の子育てであり、子どもは子ども自身育
つ力を持っており、これを支えるのが子
育て。子どもに対して、親がどうこうで
きないというのは当たり前。うまくいか
ないから親も子も育ちあう育て合い

であるとしたうえで、子育ては「やる気」
が育つていくこと。「自分が大好き」が育
つていくこと(これは、人として辛いこ
とを乗り越える力を持ち、豊かに生きて
いくために重要)だとのこと。そして、
子育ての大事なポイントとして次の4点
を挙げられました。①自己の有能感「で
きるじゃん！」(ダメでもやって見よう：
自分ならできる)②自己肯定感「失敗し
たっていい、やってみよう」(自分に自信
がある、心が広い、落ち込みが少ない、素
直に喜べる、感謝できる)③人間関係能
力「人を愛する力」「自尊心」(うまく
人と繋がる力)：これは人から愛され、尊
重されることからしか学べない。④基本
的信頼感「人はすてきな」(人を正しく
信じる力、頼ってもいいと知っているこ
と、安全を知っている：虐待の家庭では
安全を知らない)。
子育てに正解はありませんが、このよ
うなポイントを押さえながら、子どもた
ちのより良い育ちのために、箱根駅伝で
の監督が選手の後ろを走る車の中から、
「そうそうそうそうそう、それでいい、
大丈夫！」と声をかけるように、私たち
にも声をかけている(、これからも子ども
たちと共に育ち合いましよう)。
卒園するスイトピー組の皆さん、
進級するゆり組、すずらん組の皆さん、
おめでとうございます。